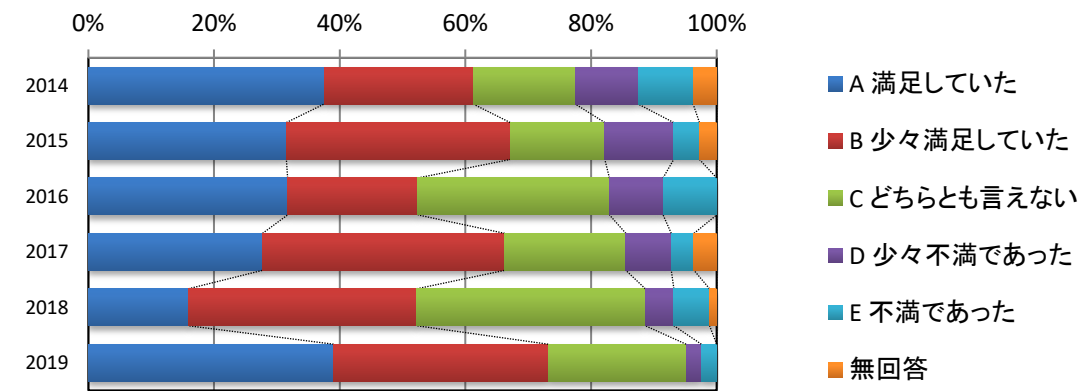


卒業時アンケート調査（結果） 《抜粋》 卒業生 2014～2019

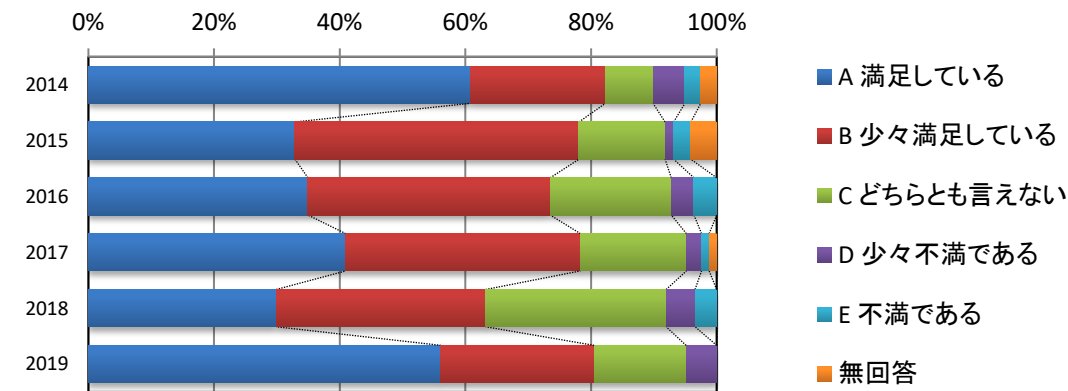
卒業時アンケートは、各年度において卒業を予定している学部在学学生を対象とする調査で、毎年2～3月に実施しています。
* 2019年度は新型コロナウイルス感染拡大のため、卒業式を取りやめ研究室ごとの学位記授与のみとし、ネットでの調査としたことで回収率が下がっている。
このアンケートの目的は、学生が本学での学びを経て、どのような知識・能力を伸長させたかを可視化するとともに、大学内容への満足度等、卒業時点における本学に対する評価を把握することにあります。

【製造学科】

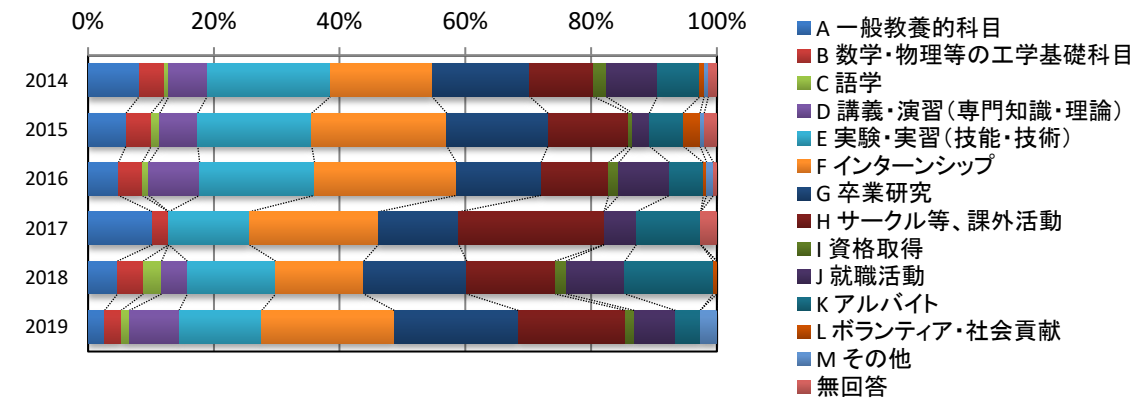
Q 6-1 入学当初、本学に入学したことに満足していましたか。



Q 7-1 現時点（卒業時）の満足度はどうですか。

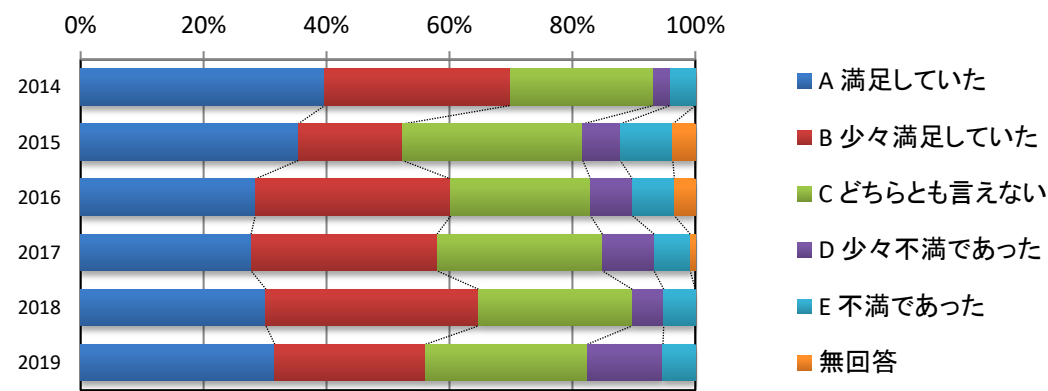


Q 8 次の中で大学在学中にもっとも熱心に取り組んだことは何ですか。（複数回答可）

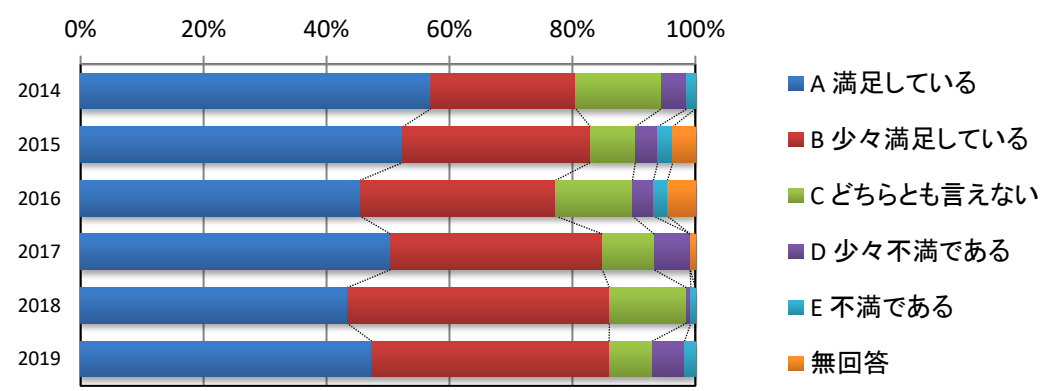


【建設学科】

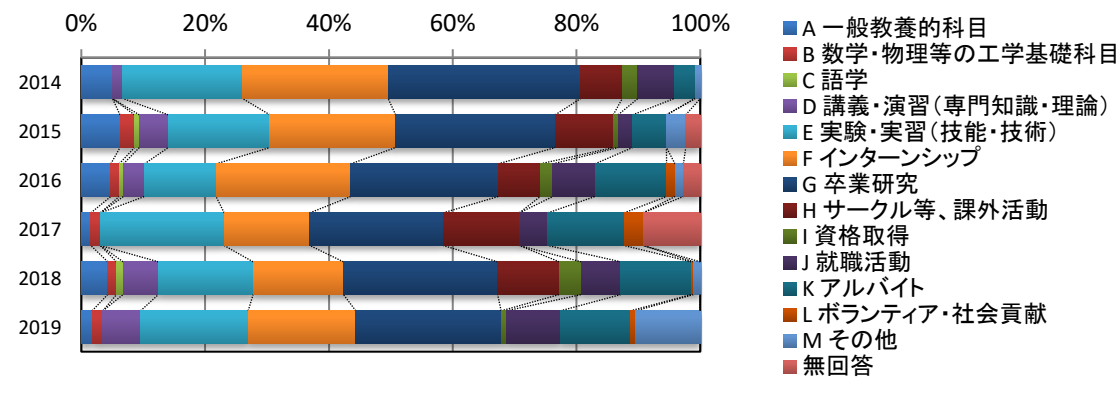
Q 6-1 入学当初、本学に入学したことに満足していましたか。



Q 7-1 現時点（卒業時）の満足度はどうですか。



Q 8 次の中で大学在学中にもっとも熱心に取り組んだことは何ですか。（複数回答可）



Q6-1とQ7-1は大学への満足度を問う設問で、入学時と卒業時を学生自身が確認するものでもある。

各年度の2つの設問を比較すると、「満足していた(る)」と「少々満足していた(る)」の合計は、いずれの年度も、両学科とも、卒業時の方が入学時を上回っている。

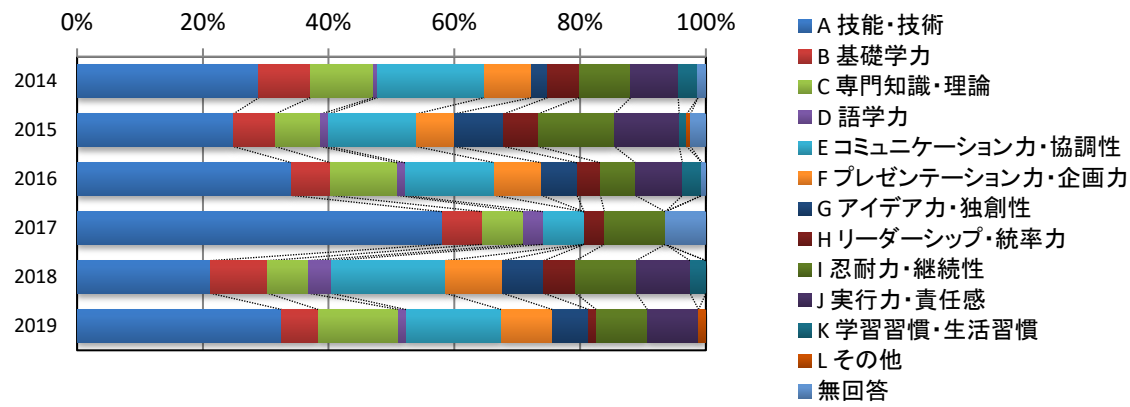
また、卒業時の満足度は80%前後の年が多い。

Q8は在学中の取組みについての設問で、学生自身が学生生活を振り返る意義がある。

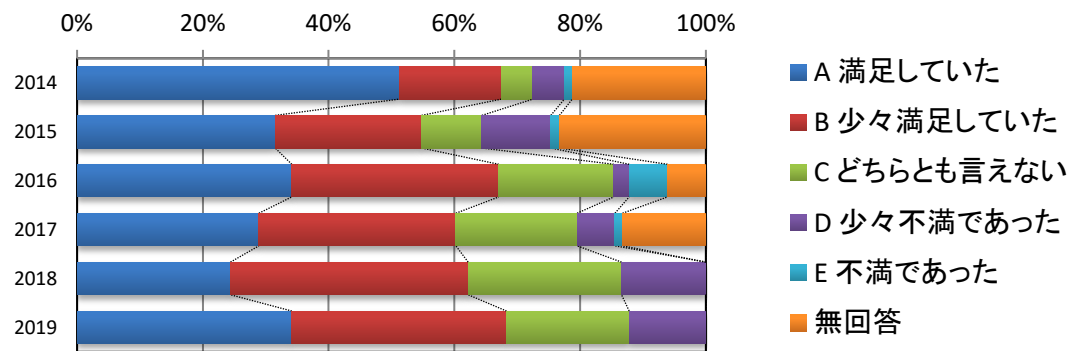
年度により、学科により順位は変動があるが、「E実験・実習」「Fインターンシップ」「G卒業研究」が多くなっている。

また製造（現総合機械）学科では、「Hサークル等課外活動」が上位3項目に匹敵しており、学生フォーミュラ、ロボコン等のプロジェクト活動の効果と考えられる。

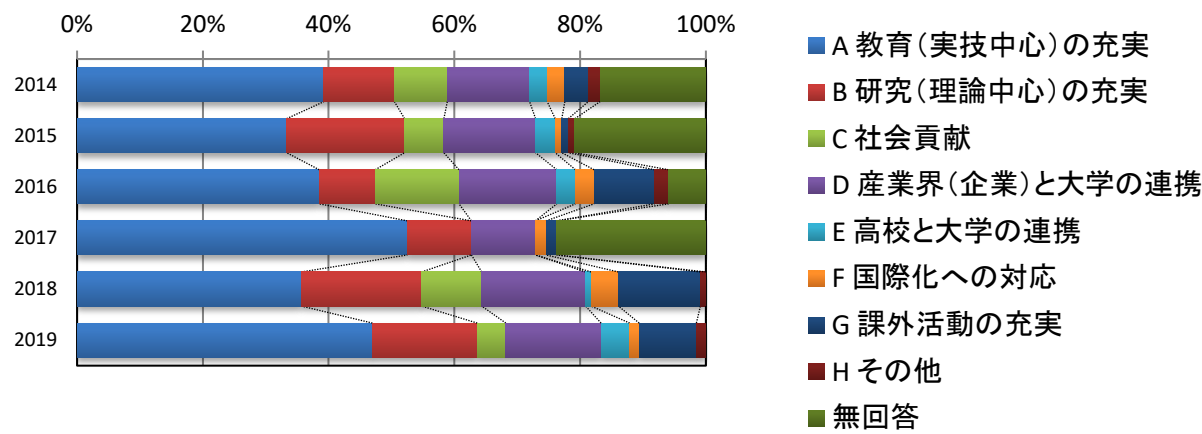
Q 9 次の中で大学在学中に最も身についた能力、あるいは将来役に立つと思う能力は何ですか。（複数回答可）



Q 1 1-1 大学の施設・設備は満足でしたか。



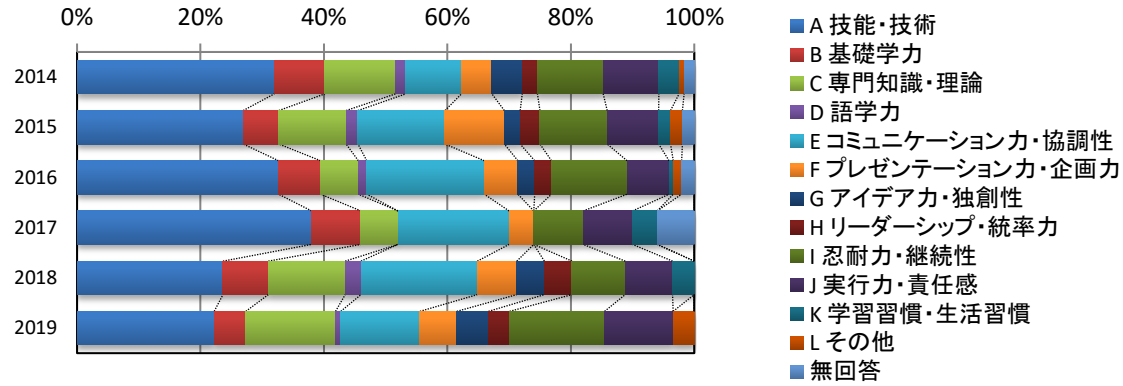
Q 2 5 次の中で本学の特色として期待することは何ですか。（複数回答可）



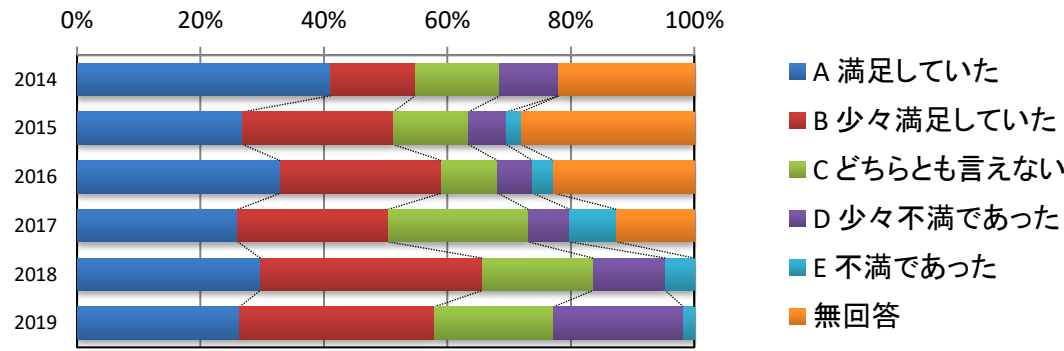
回答者の卒業生数に対する比率

卒業年度	回答者数	卒業生数	回答率
2014	80	85	94.1%
2015	73	83	88.0%
2016	82	92	89.1%
2017	83	84	98.8%
2018	87	87	100.0%
2019	41	88	46.6%

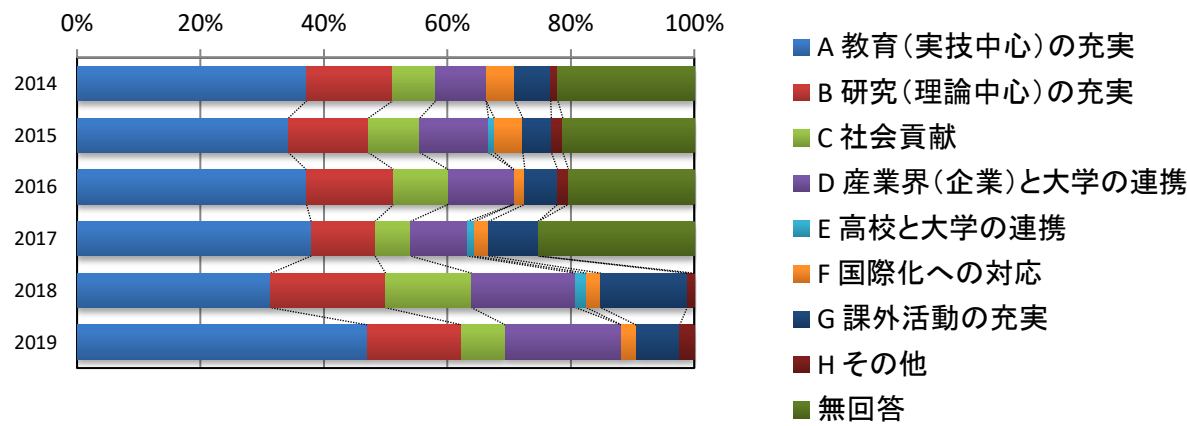
Q 9 次の中で大学在学中に最も身についた能力、あるいは将来役に立つと思う能力は何ですか。（複数回答可）



Q 1 1-1 大学の施設・設備は満足でしたか。



Q 2 5 次の中で本学の特色として期待することは何ですか。（複数回答可）



回答者の卒業生数に対する比率

卒業年度	回答者数	卒業生数	回答率
2014	73	84	86.9%
2015	82	95	86.3%
2016	88	102	86.3%
2017	119	124	96.0%
2018	137	138	99.3%
2019	57	109	52.3%

大学院生(4)を含む回答者全体の全卒業修了生数に対する割合

卒業年度	回答者数	卒業生数	回答率
2019	102	201	50.7%

Q9は在学中に見についた能力について振り返る設問である。

5番目に挙げられている項目の「Eコミュニケーション力・協調性」は、日常からものづくりにはコミュニケーションが欠かせないという指導と、実際にチームで活動する要素が授業の中にも取り入れていることなどの成果と考えられる。

Q11-1は大学の施設・設備への満足度を問う設問である。

「満足していた」と「少々満足していた」を合わせた満足方の回答の比率は、年度と学科により多少の差があるが、6割前後となっている。

一方で、「少々不満であった」「不満であった」という卒業生もあり、11-2で不満内容を確認していることから、その対応について検討していく必要がある。

Q25は、最終設問として、本学の特色への期待を問う設問である。

最も多いのはどの学年も、両学科共「A教育(実技中心)の充実」であり、Q9の身についた能力と一致していると捉えられる。

また、研究、産業界との連携がほぼ対等で次点となっており、「A教育(実技中心)の充実」と合わせて、本学での学びの経験が反映されたものと考えられる。